



レジリエンスと地域の復興

◆ 2024年12月6日(金)

● 午後1時20分～午後3時00分

西宮上ヶ原キャンパス 中央講堂 および オンライン同時配信

◆ 講師／ みぞぐち 溝口 まさる 勝氏

(東京大学大学院農学生命科学研究科教授／
認定NPO法人ふくしま再生の会副理事長／
復興農学会会長)

◆ 参加方法／

【会場】事前申し込み不要

【オンライン】詳細は下記のURLまたは
QRコードからご確認ください。

<https://kg-humanrights.jp/kz5ie94>



*本講演会では、手話通訳・パソコンテイクによる情報保障を予定しています。
また、講演会は録画し、後日、字幕をつけた動画を本学Webサイト等で配信する予定です。

■講演内容

レジリエンスは日本語で回復力とか復元力と訳される。しかし、Cambridge Dictionaryでは、the ability to be happy, successful, etc. again after something difficult or bad has happenedと定義されている。すなわち、悪いことに直面しても落ち込んだりせず不死鳥の如く復活して幸福を取り戻す能力といえる。13年前の福島原発事故で被災した地域の復興ではまさにこの「レジリエンス」が試されている。本講演では原発事故直後から福島県飯館村で実践してきた講師が、農地除染や農業再生、さらには人材育成などの活動を紹介しながら地域の復興とは何かを一緒に議論する。

■講師紹介

1960年栃木県大田原市の農家に生まれる。1982年東京大学農学部卒業。1984年博士課程中退し三重大学農学部助手。1999年東京大学助教授、2003年内閣府総合科学会議事務局参事官補佐(併任)、2008年東京大学情報学環教授に就任。2010年から農学生命科学研究科教授。

ドロえもん博士と称して農業土木学の専門を活かして2011年6月から福島県飯館村に通い農地除染の現地実験やICT・IoTを活用した農業・農村再生の実践的研究を続けている。また、大学生・大学院生を現地に連れていき、自ら現場の課題に気づかせ、その課題解決策を考えさせる教育法FPBL(Field and project based learning)を編み出し、最近ではその対象を高校生まで広げ、復興のあり方について対話している。

*車いすでご来場の方は、お席の配慮等をいたしますので事前にご連絡ください。

総合テーマ：
「インクルーシブな
社会の実現を
目指して」
(2020～2024年度)

関西学院大学人権教育研究室

Tel. 0798-54-6720 / Mail : human-rights@kwansei.ac.jp